

令和元年度 第1回総合教育会議 会議録

日 時 令和元年12月25日(水) 午前10時45分

場 所 野々市市役所 2階 202会議室

協 議 事 項 新学習指導要領に対応した教材整備について

そ の 他 1 シルバー夏休み宿題応援教室について
2 児童生徒数の推移について

構成員

野々市市長	栗 貴章
教育長	大久保 邦彦
教育長職務代理者	松野 勝夫
委員	松本 哲幸
”	宮川 美保子
”	安嶋 是晴
”	高桑 奈美

出席した事務局職員

総務部長	山口 良
総務課長	横山 貴広
教育文化部長	中田 八千代
教育委員会事務局参事兼学校教育課長	松田 英樹
教育総務課長	塩田 健
教育総務課課長補佐	前川 賢吾
教育総務課庶務係長	盛本 圭一
教育総務課庶務係主査	今村 みゆき

傍聴人 なし

議 事

開会 (午前 10 時 45 分)

《議長挨拶》

栗 議長 令和元年度の第一回総合教育会議の開催にあたりまして、皆様には大変お忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。教育長も変わりました新しいメンバーの中での最初の総合教育会議でございますが、以降よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それでは、早速ですが、次第に従いまして、議事を進めて参りたいと思います。

また、着座にて進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、協議事項の「新学習指導要領に対応した教材整備について」協議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

松田 参事 それでは、「新学習指導要領に対応した教材整備について」の協議の参考になりますように私の方から国の動きなどについて説明させていただきます。資料の 1 頁と別冊の資料を合わせてご覧ください。まず初めに「教材整備指針」に基づいた学校教材の整備推進というのが求められています。この教材整備指針は平成 23 年に策定されているもので、(1) のとおり学校に備える教材の例示品目、整備数量の目安を参考資料として文部科学省が取りまとめたものです。別冊資料の 4 頁にその抜粋でございますが、このようリストでございます。「主体的・対話的で深い学び」が実現するように求められる教材、あるいは新学習指導要領の内容に関わる教材、学校における働き方改革に対応するような教材など、符号を多くしてたくさんのリストが示されています。整備に必要な経費については、平成 24 年度から令和 3 年度までの 10 か年総額で 8,000 億円、単年度で 800 億円の地方交付税措置がなされているというふうに国は言っております。(2) について、教材整備指針は今年夏に一部改訂されました。その理由は 3 点ございますが新学習指導要領の趣旨に沿ったものになるようにということと、昨今の技術革新に対応するという事、また学校における働き方改革をさらに進めるため、という理由で改訂がなされています。市に求められる取り組みとしては、教材整備を安定的、計画的に行うことが大事で、すでに学校教育課で進めているのは整備品目や優先順位を学校と相談しながら現場での整

理をおこなって、それを取りまとめて教育委員会内での整理を行っております。学校現場で更新、新規購入が必要な教材を把握して、教育委員会内での内容の精査、教材整備に必要な費用の積算を進めているところです。昨今の技術革新や働き方改革に対応したものについては対応に努めることは大事かと思いますが、非常に高額なものも含まれていたりと簡単にそろえるものばかりではありません。ただし、新学習指導要領につきましては令和2年度小学校、令和3年度中学校で実施されますので、やはり新学習指導要領の趣旨を実現できる授業が可能になるように速やかにこの部分については整備を進めることが大事であるということです。特に令和2年度、小学校が中心になりますけれどもプログラミング教育関係の教材が新たに必要になってきます。中学校にはすでに導入されております。また、新規の例示、および内容が一部見直しされた教材についてはできるだけ早めに購入する必要があります。その他、別冊資料7頁に、文部科学省資料に教材整備指針の改訂の概要を示したものがありますが、先ほど3点、新学習指導要領関連、技術革新関連、学校における働き方改革関連の3つの改訂の内容と理由を説明いたしましたが、新学習指導要領関連ですと、発表板は一人一人の考えを思考力、判断力、表現力を伸ばすための教材として必要、またプログラミング教育用のソフトウェア・ハードウェアが必要、技術革新に係るものとしては3Dプリンターなど、また学校における働き方改革関連では拡大プリンターなどが例示されております。教材の中の一部という風にも捉えられますけれども学校におけるICT環境の整備について今年の2月27日の総合教育会議の協議内容にもございました。資料8頁に掲載しております。また、資料別冊9頁以降は、新しい動きとして、国で新たなICT環境整備としてGIGAスクール構想が示されました。1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する、簡単に説明するとこのような内容で構想がなされていて、国や県の動向を見ながら市として今後対応が必要となってくるかと思われまいます。以上でございます。

- 栗 議長 それでは、ただいま説明のありました「新学習指導要領に対応した教材整備について」協議を行いたいと思います。協議ということですが、様々なご意見を頂ければと思いますのでよろしく願いいたします。最初に私から質問をさせていただきます。これは交付税措置があると思いますが、例えば企業版ふるさと納税のようなものにプログラミング教育などを入れることはできないのでしょうか。
- 大久保教育長 現在企業版ふるさと納税の使い道として、図書の購入に充てておりますが、プログラミング教育への支援としても使えないかということでしたら、調

査研究してみたいと思います。

栗 議長 このようなものに活用できてもいいのかなと思うのですが。調べておいていただけますか。

大久保教育長 はい。わかりました。

松野 委員 学習環境の整備ということにつきましては、これまで本当に積極的に進めていただいております。県の教育委員会の集まりなどに出ることがあり、情報交換をしておりますと、比較してどうこうというわけではありませんが、いい環境で一生懸命子どもたちも学んでくれている、先生方も指導していただいているということで喜んでおります。今度、指導要領が新しくなり、そこにもものすごく重点を置いた対応ということになるかもしれませんが、今ほどもありましたようにとにかく技術革新ということでシステム関係など早く対応することが必要です。もう一つは学校における働き方改革ということで、今回あれもこれもという資材整備になるかと思えます。お金の面でご苦勞をおかけするかもしれませんが、よい資材を使ってよい環境で、より中身の濃いものを学んでいただくためにも早急に整備を進めていただきますようお願いをしたいと思います。

安嶋 委員 教材整備指針の3つの改訂内容に沿ってプログラミング教育用のソフトウェア・ハードウェアの導入や3Dプリンターを入れることになると当然負担も増えることになるとは思いますが、この部分で相矛盾する部分があるので、できるだけ学校側の負担がないような形での導入方法を考える必要があるのかなと思いました。そうすると、やはりプログラミング教育や3Dプリンターの使い方を教える側の技術向上が必要になってくるとは思います。導入にあたり、どういう風に事前に教育を学校側に対して行えるのか、専門的な人に習うような費用をこの整備費用の中で賄えたりしないのでしょうか。もしそういう事が出来ないのであれば野々市市の場合は金沢工業大学もあるのでそういったところと連携をしながら新しい技術を教育に充てていくとか、教員への教育に充てられないのかなと感じました。

栗 議長 状況を含めてお答えいただけますか。

松田 参事 今般市議会の一般質問にもそれに関連した質問がございました。学校教育といたしましてはプログラミング教育用ソフトウェア・ハードウェアを含めた環境づくりとともに、指導する教員の研修を通して、児童・生徒への指導がすぐできようとして計画的にこれまでやってきたところです。特に近隣の大学等との連携もおっしゃるとおりでございますが、そういった教職員研修の講師としても専門に指導なされている大学の先生を招いて講師として継続的に指導していただいております。その他にも、苦手な教員もおりますのでICTサポーターを学校に配置しており、授業でティームテ

ィーチングと一緒に使ってみる、教材の準備の補助をするなど、学校を手助けしていただいております。

安嶋 委員 こういうものを導入しようとするときに、意欲のあるところを優先的にするのか、あるいは、意欲の有無に関係なく全体的に広げようというのかどちらでしょうか。学校側がやりたいと手を上げないと後回しになるようでは、子どもの不公平が出てくるので、その心配があります。

松田 参事 義務教育ですので、一定の基準の教育がどの学校においても行われるように環境づくりだけはしっかりとします。カリキュラムの実施については学校の少し独自性の部分もありますが、学習指導要領で目標として掲げられたことをしっかりと実現していくのはどの学校にも求められます。特にプログラミングのハードウェア教材、ICT環境も含めて、共同調達をした方がスムーズに導入ができますので、こうところには市教育委員会として積極的に関わっていきたいと考えております。

安嶋 委員 ぜひ偏りのないような市全域で盛り立てて行けるようなバックアップ体制をと思いました。

栗 議長 その他、ご意見ありませんでしょうか。

松本 委員 これは昔私たちが習った時代は当たり前前に学校にあったもの。音叉です。途中でこの授業はなくなりました。今はパソコン上で音叉の音を出すこともできるし、どんな働きをするかも字で教えてくれます。しかし、これは触らないとわからないもの。小さな音ですが、体育館全体にひろがるんです。今持ってきているものは金沢市内の小学校の理科準備室の底に隠れていたものを借りてきました。各学校では、教材が有るか無いかを確認して無駄がないように、新学習指導要領に沿ってその学年用に準備してもらいたいと思います。

栗 議長 ほか、何かございますか。いろいろご意見をいただきました。学習指導要領で定められたものですので整備していかなければいけないものですが、各学校の備品や教材をチェックしたうえで、無駄のないよう計画的に整備をしていただきたいと思います。

大久保教育長 カリキュラムにあるもの、無いものもあるとは思いますが、もしカリキュラムに無いものであっても知っておいた方がいいと思うものについては総合的な学習の時間などで先生方に教えていただきたいと思います。ICTについて、野々市市も令和2年度までの4か年計画で、1クラス分のタブレットやパソコンを準備しておりました。国は3人に1人タブレットをとという方針でした。早くそれに追いつきたいと思っていたところ、昨今1人に1台という報道がありました。遅れることなく、財政状況もありますが国に応援をしてもらいながら整備していきたいと思えます。

栗 議長 プログラミング教育については企業のみなさんも関心があり、これまでも企業や団体さんが独自で子どもの夏休みにプログラミングの初めの部分を教えていただいたこともあるようです。そういった方たちの応援をいただくことも含めて取り組んでいただければと思います。

本日の議事事項は本件のみでございます。

その他としまして、「シルバー夏休み宿題応援教室について」松本委員、ご説明をお願いいたします。

松本 委員 機会をいただきありがとうございます。夏休みにシルバー人材センターを中心に、教育委員会の共催をいただいて行っている事業です。1学期の勉強のわからないところや、宿題の疑問点をサポートし、子どもの「やる気」「気付き」を育てるとというのがこの教室です。これは、5年前に、たまたま、私ごとですが、仕事を退職し、自由気ままにしていたところ知人に紹介されてシルバー人材センターでできることやりたいこと、ちょっと夢を語りました。野々市市にもたくさん先生がいますので、助けてもらってこんなことをすれば学校の足しにもなりいいのでは、と思ってお話しをしました。それでは一度やってみようかということになり、御園小学校児童 80人を対象に女性センターで行いました。国語・算数・理科の教科で、3年生以上を対象としました。次の年は野々市小学校、御園小学校の校内で行いました。募集は、30名程度、1回 500円で5回、5回とも来た場合は、2,500円で行いました。5年間毎年開催していますが、最初は80名だったのが今年は888名の参加者でした。教える先生は、できるだけ野々市在住か、野々市市の学校勤務経験がある元教員を集めています。教えるメンバーは12名と、受付はシルバー人材センターの人にしてもらっています。今年は、888名の参加者だったので、来年は先生を15人にしたいと思いをかけています。私が言うのはおかしいかもしれませんが、それぞれが教科のエキスパートです。65歳以上で、いわゆる再雇用も終わった人たちからお願いをして来ていただいています。学校の授業に差し障るような授業をしたら、困るので、教科書にない物をするということで、理科は学年関係なく行っており、算数と国語は3・4年生、5・6年生に分かれてやっています。それぞれの教科の先生に頑張ってもらって、教材を開発していただきながら、授業をしてきました。親にも子どもにもアンケートを取っており、参加して、させてよかったかということや、回数、教科、日程、参加費、来年も参加したい、させたいかと、このようなアンケートをとっています。子どもたちの感想は、大変よかった、よかったというのが92%、保護者も帰ってきた子どもの様子を見ながら、よかった、大変よかったというのが97%。子どもは、来年も96%参加したいということですし、親も

97%参加させたいとの回答でした。子どもの感想の中に、「ちょっと難しいこともあったけど、新しい友達も1人でできてよかったです。」との感想がありました。ここで大事にしたのは、ちょっと苦手な教科の面白さに気づくということと、もう一つは異学年で学ぶようにグループ分けをし、お兄ちゃんの良さを見つけよう、妹の良さを見つけようという目当てを最初にお話したので、この新しい友達ができよかったですという感想は、とってもうれしいです。その他に「算数は頭を使って楽しかった」という感想がありました。こういう言葉が、宝物です。保護者のアンケートには「つくりながら学ぶことができた」とあり、私たちの大事にしている手先で物を考えるということ、保護者にも非常に高く評価していただきました。「もっと時間を長くして欲しい」とか、「1・2年生から参加できるようにして欲しい」という感想もたくさんいただきましたが、スタッフをそれだけ集められないのが現状です。1・2年生に国語で何か新しいことを教える、というのはなかなか難しい。3・4年生でも大変だったなと思っています。白山市、金沢市で教員をされていた方々にも協力を頂きましたが、野々市市の子どもを見て、学力テストの評価では見えてこないもの、「どの学校の子どもたちも反応がよい。」「楽しそうに学習に取り組んでくれた。」との感想をいただきました。その先生が反対に、「1人では十分に目配りができず、申しわけない」というような感想もありました。2人配置にすればいいのですが、そうすると本当に先生が足りません。その他先生方からは、「どこ学校の子どもたちも学習意欲があり、楽しい学習活動ができました。」「おおむね熱心に取り組んでいたように思います。漢字については、苦手な子どもたちもいましたが、最後まで頑張りました。」「表現力については、各学校に少し差異が、見られました。」これは私どもも考えていかなきゃいけないかなと思います。「中高学年とも、質問に対しての反応がよく、手がしっかり上がっていました。」あと、全クラスエアコン設置も、評価していただいております。「子どもたちからたくさんエネルギーをもらいました。」「挨拶がしっかり身に付いている。」といううれしい評価もいただきました。「理科の実験では、理解度の差が大きく、サポートの必要な児童も1・2名いました。でも何とかサポートしてやることで、満足感を持たせて帰すことができました。」という感想がありました。5回全部に参加した子には皆勤賞を授与しております。ここでお話をしたいのが、来ていただいている先生によっては遠方から野々市市の小学校まで来ていただいている方もいます。シルバー人材センターからは1時間千円支払ってもらって、市からシルバー人材センターへの補助金を合わせて1日3千円を先生にお支払いさせてもらっています。その時間帯のお金は、ある意味ボランティアと

して参加いただいているのでいいと思っているのですが、問題は翌年の教室に向けての準備です。どんな教材を選んでくるか、ということを経月終わった後、9月から来年の6月いっぱいまで教材を探さなければならない。それぞれが1年間考えています。教科書は見る事ができないので、図書館に行くなりして、こんなことを教えたなら子どもが、喜ぶのではないかと自分で探さなければいけない。65歳から70歳までの教科のエキスパートを約10カ月の期間、研究してもらおうという繋がりを作っておかないといけない。そこで、教材研究開発費として、1人できれば1万円お渡しして来年の夏休みに野々市市内の小学生に教えてもらうために繋いでおきたいなと考えています。今参加いただいている先生方は、自分の知り合いを中心に声をかけてきましたが、この事業があと10年続くようなシステムにしたいと思っており、私がやめても次々と野々市市の先生方が繋がっていったらいいな、と思います。多分来年は参加者千人を超えるのではないかと思います。この事業は、親から親、子どもから子どもへの口コミでこの人数になったということが誇りです。また、先日聞いた話によると、布市神社に算学（さんがく）という額が上がっています。野々市市の人々が江戸時代にすごい算数を勉強したそうで、夏休み教室で子どもたちに自分たちの中にそういう血が流れているんだよと紹介してあげたいと思って研究をしているところです。そういうことが野々市市を好きになるきっかけになると思い、大事にしている時間です。

栗 議長 ありがとうございます。何かこの際にお聞きをしたいことがございましたらどうぞ。

宮川 委員 今話を聞いて、もし私が子どもの親だったら、ぜひ学ばせたいなという気持ちになりました。

松本 委員 最後に1つだけ。今年の最大の成果についてお話をさせていただきます。富陽小学校でのことです。教室に入れない子2人からの申し込みがありました。参加する以上は親からどんな配慮があるかを書いてもらっているのですが、そこには不登校とは書いていなかったんです。この事業では、国語の教室と理科の教室は別なので自分で行かなければならない。行ったことのない子だったそうです。それが、2学期に入って、教室に入って、ちゃんと移動教室にも行くようになりましたって校長先生からお話を聞いたとき、大変うれしく思いました。これは今年1番の、子どもへのプレゼントです。

安嶋 委員 先生方1人1万円という話ですが、これだけの人数の方々が教育に関わることへの、そういった費用対効果を考えれば、決して高くはないと思いますので、ぜひ付けていただきたいなと思いました。また、これは逆に先生

方の負担になるのかもしれないのですが、教員志望の大学生などがサポーターに入るのも方法かなと思いました。卓越されたエキスパートの先生の教育術を学ぶという面でも、大学や家庭教師では経験できないことなので大学生に見せてあげる機会をつくるといいのかなと思いました。また、アンケートにも感想を記入する欄があるとのことですが、保護者が学ばせたいことや、児童が学びたいことを聞いてみる、あるいはこのアンケートとは別に、テーマを募集すると、先生方が教材選びにいろいろ苦心されている中で、ヒントが出てくるのではないかなと思いました。

松本 委員 今年には統計学を教えてほしいという希望が出ました。果たしてどうやったら教えられるのか。ただ教えるのではなくて。算数は計算ばかりではなくて、物語があるんですよ。さっきお話しした算学の話や、算数物語みたいな絵本があるので、そういう絵本を探すのがこれからの仕事です。子どもに字ばかり書くのではなくて絵本を見せながらお話を聞かせる。算数ってこんなおもしろいところがあるんだな。日本の話でいうと、豊臣秀吉は部下がいいことをしたときにご褒美をあげるといわれたときに、1日目は1粒のお米でいいです。2日目は2粒でいいです。3日目はその2乗の4粒、それを1年間いただけると嬉しいですよと言ったという話があって、365日だと数万俵で済まなかった、という話をしながら計算機を使って一緒に計算してみる。2乗で物事を見ていく、という考え方ですが、2乗と言っては何も面白くない。次の日に2倍、次の日にその倍、と行って数学の面白さを教えていく。その伝え方を考えていくのが私の健康法です。大学生の助手はいい意見だと思いました。子どもの心のつかみ方は、教えることはできないけれど見せることはできる。先生を育てるという視点がなかったので、今後考えてみたいと思います。

松野 委員 子どもは「勉強が楽しい」と書いてありますが、保護者の意見を見ていると、夏休みの過ごし方とか、家でダラダラいるよりもそこに行けばきちんと宿題をやってくれるとか、時間を伸ばしてほしい、とか意見がありましたね。

松本 委員 これが先生方の限界かなと。来年度、今のところ3人は声をかけて了解を得ています。

高桑 委員 私の子ども自身、昔、人工いくらを作ったことがあり、それがきっかけで、将来バイオ系に行きたいと言いました。ちょっとしたきっかけで将来の夢を見つけることができると思います。また、今は数学をおもしろくないと感じていても、学校の数学とは違う方向から、おもしろさを見つけることができると思います。子どものため、将来のため、とってもいいことだと思うので、続けてほしいと思います。また、おじいちゃんおばあちゃん

んと同居していない方もたくさんいらっしゃいます。そこでは、おじいちゃん、おばあちゃん的な人とコミュニケーションを取ることもでき、子どものためにはいいなと思いました。

栗 議長 松本委員や他の委員の皆さんからのお話もお聞きして、来年度はシルバー人材センターでの取り組みということで、いろいろ検討されているところだと思います。ただ今日お話をお伺いして、子どもの人数も含めて、ますます人気が高まってくると思いますので、そういう状況も踏まえて、シルバー人材センターの取り組みから、教育委員会の取り組みということに、もう検討をせざるを得ないようなことも出てくるのではないかなあという気がしますので、今後はそういうことも含めて、ご議論いただければいいかなというふうに思います。

大久保教育長 全国的に見ても、県内でも、当市だけでしょうか。

松本 委員 全国で野々市市だけです。金沢市の場合は夏休みではなく、年間を通して、ノーベル賞とか、数学国際オリンピック、そういったところに出す子の英才教育は、年5回とか10回とか行っているようです。ただ、その子たちは学ぶことに興味を持っているので、放っておいても勉強ができます。それよりも、勉強の苦手な子どもは、好きだと思ったときに学力があがる。そっちのほうに、ちょっとご協力させていただきたいと思います。ペーパーテストの答えが全てじゃないと先ほどお話ししましたが、先生が子どもをみて意欲的ですよと言ってくれるということは子どもの質は悪くない。目が輝いていると言ってもらえる子どもを、私は野々市市の財産だと思います。

栗 議長 教科書を使わずに、勉強の楽しさを教えるということですので、教育委員会の事業ではなくシルバー人材センターでの取り組みというのが合っているのかなと思ったりします。今後のことを含めて、また、考えていきたいと思いますので、ぜひ引き続いてよろしく願いをいたします。

松本 委員 はい、よろしく申し上げます。

栗 議長 次は、「児童生徒数の推移について」説明をお願いいたします。

塩田 課長 「児童生徒数の推移について」ご説明をいたします。まず、小学校の児童数でございますけれども、来年度は、市全体で50名程度増え、児童数の総計では約3,400人になる見込みとなっております。今後の動向でございますけれども、資料のとおり、毎年少しずつ増えていきますが、現在、資料上で見えているのが、令和7年度で減少に転じていますので、令和6年度が児童数のピークを迎えるのではないかと見ております。個別の小学校でご説明しますと、御園小学校、菅原小学校、館野小学校については、若干増える年もございますけれども、ほぼ横ばいで推移しています。富陽小学校に至っては、現在、県内一のマンモス校でございますけれども、昨年度

をピークに減少に転じております。そして市内で唯一増加傾向にございますのが野々市小学校でございます。こちらについては市全体の動向と同じく、来年度に50名程度増え1クラス増と聞いております。野々市小学校においても、令和7年度に減少になっていることから令和6年度にピークを迎えるのではないかと見ておりますが、来年度以降の動向も注視したいと思っております。また、市内で今現在、中林及び西部中央地区の2地区で土地区画整理事業をおこなっており、今後、この2地区の宅地造成の状況も注視しながら、児童数の推移を見守っていきたいと思っております。次に中学校の生徒数でございますけれども、来年度については、今年度よりも約80人程度増え、中学校全体では1,460人余りの生徒数となる見込みとなっております。中学校についても小学校の児童が増えていることもございまして、数年先にはやはり中学校の生徒数にも影響してくるものと考えております。おおむね5年先の推移で見ますと、野々市中学校については令和4年度をピークに減少に転じてくるという数値が出ておりますし、布水中学校については野々市小学校の児童が増加してきているということもございまして、毎年増え続けていく傾向にあります。いずれにしましても、今後、教室不足の懸念もありますことから、次年度以降についても児童生徒数の推移を注視していきたいと考えております。

栗 議長 はい、ありがとうございます。この件について何かございましたらお願いします。

大久保教育長 補足いたします。住民基本台帳をベースにした数字で説明がありました。実績ベースになりますと、途中で転出していくということもありますので少し減ることになります。住民基本台帳ベースの数字は、住民票がある子どもたちが、このままずっと野々市市にいるという場合の推移です。補足説明は以上です。

栗 議長 次に何かございますか。
それでは特にないようですので、以上で令和元年度第1回総合教育会議を、終了させていただきたいと思います。
本日は誠にありがとうございました。

閉会 (午前11時54分)

以上、本会議の議事経過及び結果が正確であることを証するため、野々市市総合教育会議設置要綱第7条第1項の規定により議事録を作成する。